

# 令和元年度第3回美浜町総合計画審議会議事録

日時：令和2年1月9日（木）9時30分～12時

場所：美浜町役場 3階 大会議室

出席者：審議会委員 11名、事務局 5名

審議会 千頭会長、牧副会長、川上委員、野田委員、廣澤委員、廣重委員、  
富谷委員、久木委員、岩川委員、伊藤委員、末盛委員

事務局 杉本総務部長、磯貝企画課長、米本総務部主幹、森田企画課係長、村田主査

次第：1 あいさつ

2 議題

(1) 第5次総合計画中間評価（第3章～第6章）について

(2) その他

3 意見交換

4 今後の予定について

1. あいさつ（進行：磯貝企画課長）

・千頭会長あいさつ

・欠席者の報告 岩本氏、横井氏、吉田氏、横田(和)氏、横田(博)氏

2. 議題、及び3. 意見交換（進行：千頭会長）

(1) 第5次総合計画中間評価（第3章～第6章）について（説明：各担当課長）

第5章の各担当課長：（資料に基づき説明）

会 長：公務の都合上、まず5章から説明し、その後3章、4章、6章と進めていく。

委 員：【5-2】学校教育の充実について、小規模校では、きめ細かい行き届いた教育ができるが、単学級であり、社会性を養うという面においては、課題がある。令和7年度の開校を目指して小中一貫校を整備し、「学力がつく」、「英語力がつく」、「国際性が身につく」、「楽しく協力しあって学べる」、「施設が充実している」、「8校の教員が集まって充実している」「(4章の課題となるが)障がい児が個々の障害に合わせて成長し、社会性を身につける」ということを美浜町の教育の特色として、外部へのセールスポイントにしてほしい。親の関心は子どもの教育に最も関心がある。

委 員：【5-1】生涯学習の推進について、生涯学習センターが指定管理となっているが、サービスの低下はないか。また、公民館での自主的な生涯学習や、公民館のサロン化についてどのように考えているのか。職員については、各区の町民に依頼しているようだが、公民館での職員の活用をどう考えているのか。

【5-3】スポーツ・レクリエーションの充実について、少子化の関係でスポーツ活動が低下していないか。スポーツクラブが法人化されているので、それを活かして欲しい。

事務局：図書館も含め、今年度から生涯学習センターは指定管理となった。それに伴い図書館のレファレンスサービスは充実した。一方、夜の午後 10 時まで空いていたセンターが午後 6 時までになったが、指定管理の契約上、致し方ない。公民館への職員の配置は、人件費負担が財政的に厳しいため指定管理になっている。スポーツ団体等の減少については、大学と連携し、スポーツ人口の裾野を広げている。今後も大学と連携し取り組んでいきたい。

委員：小中一貫校には、賛成する。段階的に実施していくのであろうが、過去の町長選時の下水道問題、運動公園問題のようなことが起こらないように、住民に対する説明を十分にした上で、推進して欲しい。

事務局：小中一貫校の計画については、段階的に実施していく予定であり、町民への周知についても丁寧に行っていく。

第 3 章の各担当課長：(資料に基づき説明)

委員：【3-1】農業振興について、グリーン・ツーリズムについては、宿泊と絡めて欲しい。過去の実績では、宿泊数は伸びなかったと聞いているが、ブランド化の商品（つめた貝等）と絡めて宿泊を推進して欲しい。

【3-5】交流産業（観光産業）の振興について、イベントを色々と開催しているが、マスコットの「のまっキー」をもっと美浜町のキャラクターとして PR して欲しい。

【3-6】地域資源を活かした新たな産業づくりについて、美浜町でできるスポーツ、大学でやれるスポーツ（例えば障害者スポーツ）を推進して欲しい。

事務局：宿泊を絡めることについては、以前、旅館の中での格差（ふぐ料理）があった。また、参加者に高齢者が多く、美浜町は名古屋から 40 分だから宿泊の必要がないという意見もあった。夜の星空や早朝の日の出のイベントなど意見を求めながら模索している。ブランド化については、竹林が多いのでメンマ作りを、つくだ煮街道さんに依頼し商品開発（みはまのメンマ）しており来年度には、店頭に並べたい。「のまっキー」についてはピンバッジを作っており、スポーツについては 3 月に少年野球全国大会（160 人規模）を企画し、弁当・宿泊もセットする。少年野球の聖地としたい。

委員：【3-4】活力を生む工業振興について、企業誘致も良いが、地元企業も意識して欲しい。事業を継承しない人もおり、相談窓口を設けてほしいし、地元企業が町外に出ない配慮もして欲しい。

事務局：昨年度は、新規企業が増えている。相談窓口については、連携して一本化したい。

委員：例えば、伊賀のモクモクファームさんを美浜に呼べないか。名古屋のレストランは長蛇の列である。伊賀は遠いが、美浜は名古屋から近い。農業と観光を上手くビジネスモデルとしているところを美浜に呼んで欲しい。

事務局：モクモクファームさんは、参考にしている。えびせんべいの里さんが、農業に力を入れ始めた。民間主体で考えていきたい。

委員：当事者（農・商・工・観光）の応援が最も大切、行政は全力でサポートして欲しい。地産地消の推進。学校給食、食育も子どもたちにとって重要な教育である。都市への情報発信という側面支援も大切である。

事務局：一緒に進めていきたい。業者の弱いところをしっかりと支援したい。例えば、食のマップ（どの宿で何が食べれる）を観光協会とともに作成して食育にも使っていきたい。

第4章の各担当課長：（資料に基づき説明）

委員：【4-1】健康づくりについて、広報誌の町長あいさつに「長寿日本一のまちづくり」とあった。具体的に述べられていないが、どのような施策が、どう位置づけられるのか知りたい。

事務局：まだ具体的な施策については、述べられていない。もう少しお待ち願いたい。

委員：【4-4】高齢者の福祉・健康・保健の連携・体制整備について、美浜町は、大きな家で一人暮らしをしている高齢者が多い。老人は、一階で生活しており、二階は空いているので、学生の下宿として使えないか。学生が見守り隊になって欲しい。

事務局：既に見守りは、行っているが、今の意見は考えていなかった案であり、大学と相談してみたい。

委員：子どもが学生で、京都に住んでいる。京都市が推進している、下に高齢者・上に学生という仕組みがあり、NPOが運営している。このNPOには多くの大学が参画している。今年度からコミュニティハウスも運営している。まだ浸透はしていないが、一部に反対意見もある。ただ、利用される高齢者や子どもは、日に日に生き生きした顔になっている。行政の方はこのようなコミュニティハウスを上手く利用して欲しい。

事務局：町の保健師は、サロン各地を回って、血圧測定等も実施している。

会長：コミュニティハウスとは気づかずに、高齢者サロンと思っている方もおられるようだ。

委員：核家族化が進んでいるので、皆と仲良くする場が必要だ。

委員：【4-2】地域医療の確保について、知多半島の市民病院の経営は、どこも大変な経営である。JAの知多厚生病院は、知多半島南部の総合病院である。町から補助金をもらっているが、地域社会への貢献として、ご理解願いたい。

委員：子どもの人口が減っている。移住政策とリンクしたパッケージを作る必要があると思う。雇用と住宅と福祉。島根県か鳥取県において、シングルマザーを対象として実施している。

委員：町内に福祉タクシーがなく、知多半島では常滑市しかない。病院から自宅に戻る足がない。

事務局：年間12枚の福祉タクシーの券を出しているが、十分に利用されていない。PRに努めたい。

委員：【4-3】地域福祉の充実について、河和区では要支援者約230名を登録している。但し、実際に災害が発生した時に、230名を区として助けるのは難しい。近隣住民による、隣組の見守りに力を入れた方が効果あると思う

事務局：緊急事態時に、即対応することが大切。防災課長にも伝える。

第6章の各担当課長：（資料に基づき説明）

委員：【6-6】広域的な連携について、公共施設は、お金がかかる。町独自でなく広域で処理すると、何か運営等に問題があるのか。

事務局：分担金の負担割合の問題がある。例えば、南知多町とのごみ処理で言えば、離島からのゴミ運搬費は南知多町が負担している。また、既に稼働している施設の組合に後でから加入すると、初期投資部分に対する負担がのしかかってくる。

委員：【6-4】住民の参画と協働について、まちラボは、町と協働しながら事業を実施してきた。交付金事業に関する役場のノウハウを貸して欲しい。

【6-7】進行管理体制の整備について、提案を受ける体制が整っているのか？

事務局：まちラボは、町にとっても初めて取り組む事業であった。ノウハウについてもしっかりと協働体制を作っていきたい。提案については、可能な限り整備していく。

委員：【6-3】広報・情報発信について、いろいろ発信してもらっているが、住民まで届いていないと思う。作ったからおしまい。放送したから終わりではいけない。ホームページもアイコン化するなど、もっと見える化して欲しい。老人に対しては、広報誌を持ってサロンを回って欲しい。南知多町の役場案内は優れており、職員が行っており全員オールラウンドプレイヤーである。役場に入ると「何かありますか」と聞きに来て、その担当課まで連れて行ってくれる。

事務局：広報については充実させていきたい。ホームページは、コンテンツマネジメントシステムという安価なものを使っている。総合窓口業務については、外部委託している。一層充実させていきたい。職員教育についても、一層徹底させたい。

委員：町外在住者の視点から見たホームページの感想を述べると、のまっキーというキャラをもっと育てるべき。また、美浜の英語教育等の取り組みを名古屋市在住者に届ける試みが必要である。

委員：数年前から婚活支援事業を実施していると思うが、実績はどのような数字で、どのように評価されているのか。

事務局：5ヵ年計画で実施し、力を入れている。5組が結婚したが、美浜町に残らなかった。婚活イベントは花火大会を泊りがけで実施していたが、最近人集めが大変。最近はニーズが変わってきており、今はコーディネーターに依頼して、イベントありきでなく地道な活動を継続している。

会長：新規就農の方は17人であるが、単身者か既婚者か分かるのか。

事務局：大半は、既婚者が就農しているようだ。

事務局より「意見・提言シート」の提出が求められた。

## (2)その他

事務局より、前回審議会において要望のあった「人口動向について」報告があった。

### 4. 今後の予定について

事務局より、これまでの評価内容、委員からの提言を踏まえ中間見直し案（後期計画）を令和2年3月を目途に立案する。5月に諮問を受け、中間見直し案を2回ほど協議し、8月に答申する。1ヶ月程度のパブリックコメント（7月頃）を反映させ成果物とし、9月議会に上程する。以上表明があった。

【第4回審議会 令和2年5月予定（諮問）】

以上